

愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)
「中国学と現代中国学構築」研究会

「中国学」の現状と 「周辺-中心」「世界システム」

講師 周長城 氏

武漢大学社会学系副主任・教授

概要：

1960年代にG. ミュルダールがその著「アジアのドラマ」で南北問題を提起して以来、70年代にS. アミン、A. G. フランクなどによって「周縁」論が、ウォーラーシュタインによって「世界システム」論が、さらに70年代末にE. サイードによって「オリエンタリズム」が唱えられ、欧米の先進諸国とアジア・アフリカの発展途上諸国の構造的な格差が乗数的に拡大する現実が指摘されてきた。現在はこうした現実が単に国家間格差の問題だけでなく、国内間の格差問題として浮上してきた。中国はまさにそうした現実と直面している。国際社会に存在する。周教授はこうした視点から中国をいかに理解するかの新たな視点を提起する。

2005年11月7日(月) 10:00～13:00
愛知大学名古屋校舎 研究館2階 第2会議室

* 講演は中国語でおこないます。(通訳あり)

* 申し込み不要

【主催】愛知大学国際中国学研究センター

【お問い合わせ先】愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)事務室

Tel : 0561-36-5637 (内線 2862) Fax : 0561-36-5422 (内線 2869)

聴講無料